

第34回

うつのみやこども賞だより

平成29年度 10回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『ひかり舞う』

中川なをみ／著（ポプラ社）



～読んだ本の感想より～

- 昔の常識と今の常識はまったくちがくて、その中で強く生きていて、すごいと思った。
- 平史郎がどんどん大人になっていって、人との絆が深まっていくところが良かった。
- 平史郎のだれかを守ろうと思う姿に心を打たれた。
- 生きていくことは、誰かにささえられていることであり、人と人とのつながりが感じられる本だった。
- 平史郎が周二やタツなどの人物とふれあいながら、成長する物語が感どう的でおもしろかったです。
- こんな時代があったんだなあと思いました。一人で生活をしていてすごいと思いました。
- 出会った人に支えてもらいながらもたくましく生きていく主人公はすごいと思った。
- 誰かを守りたいと必死に生きる平史郎がかっこいいと思った。

『あした飛ぶ』

東田澄江／著（学研プラス）

- リュウセイも星乃も悲しい過去をかかえていてそれを分かち合えるっていいなと思った。
- 文通しながらものがたりがすすんでいくということがなかなか他の本ではみられないからおもしろいと思った。
- お父さんが死んじゃって心をとざしていたけど、チョウで、だんだんみんなと、とけこんでいくすがたがかっこよかった。
- 一匹のチョウが名前も知らない人や家族を結びつけてくれるという話に感動した。
- アサギマダラのおかげで2人が立ち直っていくすがたに感動した。
- 星乃は、りゅう生の力になりたいと思うところがやさしいなあと思いました。

『奮闘するたすく』

まはら三桃／著（講談社）

- 佑のおじいちゃんはレクリエーションしなかったけど周りの老人はみんなマイペースで性格がわかたりして面白かった。
- 学校の先生や、おじさんたちのようすが、心にじ〜んときた。
- 介護はしたことはないけれど最後の後で笑いそうになってしまった。
- 性格の違うお年寄りはどう接していくのか、佑が「奮闘」していく姿に感動した。
- 世代をこえたつながりは、人を幸せにするのかなと思った。

『村木ツトム その愛と友情』

福井智／著（偕成社）

- マリンに「5秒だけ、彼になって！」と言われたツトムの心情がおもしろかったです。
- 青春という感じがして、その主人公があまりもてない男の子というところがおもしろかったです。
- ツトムがけん道でゆう勝するのが気持ちよかったです。
- 村木の考えや、友人たちの優しさ、友情がよく分かる本だった。
- ツトムが色々と成長するのがおもしろかったです。

平成30年3月4日

うつのみやとしょかん
Utsunomiya city library